

95. 早過ぎる検証報告

袴田事件は、9月26日の再審公判で静岡地裁が袴田巖さんに無罪判決を言い渡し、検察も控訴せず10月9日正式に無罪が確定した。

その後私は、『袴田事件 神になるしかなかった男の58年』（青柳雄介、文春新書）を読み、本の帯にある「裁かれるべきはこの国の司法ではないのか!？」に納得した。同書には袴田さんの書簡や獄中日記も沢山紹介されていて、被告になってからの^{いきどお}憤りや苦悩がわかるとともに、拘禁の影響か「神になった」というような言葉も出てくるが（逮捕されてから18年後に拘置所でカトリックの洗礼を受けている）、その文章は語彙も豊富で哲学的であつたりして驚かされる。一例として掲げる次の日記は逮捕から16年後、死刑確定から2年後で、第1次再審請求中に書かれたものである。最大限の言葉で無実を訴えているのが伝わってくる。

覆い隠されてしまうところ、人の心も見えず、真実の叫びが声とならず音とならず、連日起こる抗議の言葉の跡すらみえぬ。真昼にも真の闇に覆い隠されてしまうところ、夜通しもがき掻きむしっても何一つ掴めないところ、足もととどかぬ底なし沼、何一つ行くえも知れぬところ、一切隠し消そうとするところ、ひとたび転んだら二度と起つ手だてすらないところ、呪いと滅びの地獄よ。だが、私の心は縛れぬぞ悪魔たちよ。（1982年3月14日、獄中日記より）

また、映画「^{けん}拳と祈り—袴田巖の生涯—」（笠井千晶監督）を見たが、本を読んでいたのだから理解できた。最初の画面は2014年3月、いつ死刑が執行されるかわからない袴田さんが突如釈放され、迎えのワゴン車に着の身着のまま乗っている様子だ。何が起きているのかわからないような表情に思えた。当時40歳の女性監督が助手席から後ろを向きながら撮ったもの。監督は2002年より姉の袴田秀子さんと親交を深めていたので撮れた貴重な映像だった。

逮捕から58年、死刑判決から56年、死刑判決確定から44年経過して、無実の無罪になった。持ちこたえられたのは、ボクシングで鍛えた体力と精神力、それに、この上なく立派な姉がいたことが大きいように思えた。

12月26日、最高検と静岡県警は袴田事件の再審無罪を受けて捜査のあり方を検証した結果を公表した。再審無罪判決の9月26日から3ヶ月、半年位はかかるだろうと思っていたので、あまりに早い検証報告に驚いた。新聞のコラムは「無罪判決から3ヶ月もたっていない。逮捕から死刑判決を経て冤罪が晴れるまで半世紀以上かかった重大事件の検証はそんなに早く済むものか」と訝る。実際、最高検の報告書を読むと弁解がましさと軽さを感じる。

取り調べについては、最高検は検察官の「犯人と決めつけての自白要求」を認め、県警は警察の「供述の任意性が否定され、不適正であった」ことを認めた。

しかし、「5点の衣類」などの捏造の検証では、最高検は「捜査機関は、犯行着衣はパジャマであると確信して取調べを行い、自白を得て、(略)犯行着衣はパジャマであるとして、これを立証の柱の一つにして公判請求し、公判請求後も犯行着衣はパジャマであるとして調書を録取していたのであり、この頃に、かような捜査及び検察官立証の方針と全くそごする5点の衣類を、わざわざ入手しておき、後に犯行着衣としてこれをねつ造するなどということは現実的にあり得ない」と反論した。一方、県警の報告は「捏造したとも、捏造ではないとも、具体的な証言は得られなかった」というどっちつかずの内容。これでは捏造の有無を調べたことにはならないのではないか。

また、最高検の報告書の「はじめに」に、「無罪の結論を否定するものではなく、検察は袴田氏を犯人視していないことを改めて付言しておく」とある。それならば、9月8日の検事総長の談話、「被告が犯人であるが、長期間に渡る法的地位の不安定により控訴しない」(No.92 参照)との整合性はないことになる。検事総長の談話は修正すべきではないか。

そんな中、いわゆる「飯塚事件*」の第2次再審請求即時抗告審で、高等裁判所が勧告していた証拠の開示について、27日検察は「必要性がない」として開示しない意向という。開示の必要性の有無は検察が判断するものだろうか。裁判所が開示せよというなら素直に開示すれば良いだけの話ではないのか。それを拒むのは何か後ろめたさがあるということにならないか。

これは前述の最高検の報告書に「令和6年1月、最高検に設けられた再審事件専門の組織である再審担当サポート室の体制を強化するとともに、高検にも同様の組織を設置するなどして、全国の重要再審事件について、適時適切に支援・指導を行っていくなど、上級庁において主導的役割を果たせる仕組みを構築していくこと、など検察組織全体で再審事件に対応するための体制強化を図っていくこととする」とあるのにも反するのではないか。

* 日弁連の下記 HP 参照

<https://www.nichibenren.or.jp/activity/criminal/deathpenalty/q12/enzaiizuka.html>

(2024年12月29日)